

2013年3月25日 vol.07 

緑 GO GREEN でいこう

緑の党は、グローバルグリーンズ憲章の6つの政治理念、

- ①エコロジカルな知恵
- ②社会的公正・正義
- ③参加民主主義
- ④非暴力・平和
- ⑤持続可能性
- ⑥多様性の尊重

に基づき、「緑の社会ビジョン」の実現をめざします。
国政に緑の議席を！

緑の党 Greens Japanが参院選の候補者選定のために実施した第2次予備選挙。7人の立候補者が全国各地で街頭演説や討論会を行いました。



写真右=2月24日、大阪での街頭演説。

写真左=3月3日、緑の党事務所（東京）での公開討論会

4/6 Sat.

そろそろ いよいよ とうとう 一步を踏み出す
市民発“緑の党”が国会へチャレンジ！
～発表！ 参院選候補者たちと緑のプロジェクト～

- 日時：4月6日（土）17:30 open / 18:00 start
- 場所：YMCAアジア青少年センター（東京都）9Fホール
- 参加費：会員&サポーター無料／一般500円

さらに20:00から同会場にて…

“GREENS POWER UP” PARTY

- 参加費：2000円
 - マイ箸／マイ皿／マイカップをご持参ください
- 手作り野菜料理と安心美味のドリンク（※）を嗜みつつ愉快地に未来を語り合いましょう！
※ 寺田本家の樽酒／ハートランドビール／絞ったまんまのみかんジュース



参院選チャレンジ情報

第2次予備選挙 結果発表

会員の投票による第2次予備選挙で 新たに3名が選ばれました

緑の党は、3月18日の第10回全国協議会において、2013年参議院比例代表選挙(全国区)の第2次公認候補予定者として、以下の3名を決定しました。

- ・長谷川 羽衣子さん(京都府京都市在住 31歳)
- ・杉原 浩司さん(東京都大田区在住 47歳)
- ・松本 なみほ.さん(兵庫県神戸市在住 38歳)

長谷川 羽衣子



■プロフィール

京都・東山に生まれる。奈良女子大学卒業、上智大学大学院修士課程修了。大学在学中、産官民連携の大阪府環境事業の実行委員を務め、毎年約1万人の来場を実現。2011年震災と原子力発電所の事故を受け、NGO「e-みらい構想」を設立、代表となる。2012年7月より緑の党(Greens Japan)の共同代表。

■コメント

私の挑戦をきっかけにもっと多くのひとびとが、緑の党を土台として政治に立ち上がってくれることを心から願っています。

杉原 浩司



■プロフィール

鳥取県生まれ。80年代半ばより市民運動に参加。PKO法反対、仏中米の核実験反対、阪神・淡路大震災被災者による住宅再建への公的支援を求める「市民＝議員立法」運動、ミサイル防衛反対運動などに関わる。「3・11」以降、脱原発運動に没頭。みどりの未来・脱原発担当を経て、現在、緑の党事務局スタッフ・脱原発担当。

■コメント

市民の中に「内なる壁」とも言える政治家や政党への距離が厳然と存在します。まずは自分がそこを突破します。

松本 なみほ.



■プロフィール

神戸市のニュータウンに生まれ育つ。28歳で神戸市議会議員選挙に立候補するも次点落選。市議会会派の政務調査員をしながら緑の党設立に向けて活動。現在は環境政策コンサルタント自営業主として、家庭の省エネ診断事業に携わる。半農半Xを目指し米作り修行中。息子6歳。好きな言葉は「足るを知る」。緑の党運営委員・緑の党ひょうご共同代表。

■コメント

阪神淡路大震災を経験した神戸市民として、原発依存度の高い関西人として、原発震災・放射能拡散政策をくいとめたい。

■投票結果詳細

【開票作業】 3/17(日)

【有権者数】 889

【開票結果】 投票数470（投票率52.8%）

有効票463、無効票7

有効票の3分の2 308.6

有効票の2分の1 231.5

【得票数】

長谷川羽衣子 374 (2/3超)

杉原浩司 282 (1/2超)

松本なみほ 252 (1/2超)

山田みち子 218

尾形慶子 194

さとうしゅういち 152

山崎博文 94

緑の党公認候補予定者は、4名（すぐろ奈緒さん、長谷川羽衣子さん、杉原浩司さん、松本なみほ.さん）が決まりました。候補者選定委員会では、4月中のできるだけ早い時期に10名の候補者を確定できるように、全力を挙げています。直接選出では分野・地域・ジェンダーバランスなどを総合的に考慮して選出にあたります。その際に、今回の予備選挙で惜しくも選出に至らなかった立候補者も対象とする場合があります。

1口1,000円で
10万口めざそう！

1

選挙資金
億円カンパ

2013.3.1現在

3311万3693円

日本には、既成政党に有利な制度があります。世界一高い供託金という政党政治への参入障壁です。供託金とは選挙運動費用ではなく、選挙への参加料です。参議院選挙では、候補者1人あたりの供託金が、比例区で600万、選挙区300万です。活動資金も含め1億円は必要です。市民の力で目標を達成したいと思います。ぜひご協力をお願いします！

振込口座：郵便振込（ゆうちょ銀行）口座

【口座番号】 00100-9-262967

【口座名称】 緑の党

一般金融機関からゆうちょ口座へお振込みの場合

【口座種別】 当座預金

【店名】 〇一九（ゼロイチキュウ：店名の読み）

【口座番号】 262967

オピニオン

アベノミクス／北朝鮮核実験／3.11から2年

緑の党では、時々の政治・社会状況に対して、緑の視点からの声明や見解、論説、談話などを発表しています。

◆【論説】アベノミクスは人びとの生活を破壊する

(2013年1月25日 緑の党 運営委員会)

安倍政権は、アベノミクスと呼ばれるデフレ脱却・経済再生の政策を華々しく打ち出してきています。この政策は(1)公共事業（「機動的な財政出動」）、(2)大胆な金融緩和、(3)成長戦略の「3本の矢」から成り、その第1弾として緊急経済対策が決定されました。

緊急経済対策は、補正予算案として国が10.3兆円（基礎年金の国庫負担分を含めると13.1兆円）を出し、自治体なども合わせた事業費が20兆円に上るという大がかりなものです。その中心は4.7兆円を費やす公共事業です。「防災・減災」のために老朽化した道路や橋の改修に取り組むとしていますが、必要性に疑問のあるものなどが含まれ、従来型の公共事業の全面的な復活が目論まれています。また、緊急経済対策には「成長による富の創出」や「暮らしの安心」のための支出も含まれていますが、後者には自衛隊の装備強化まで入っています。

安倍政権は、公共事業中心の財政出動が民間の投資や雇用の増加に波及し、景気回復をもたらすとしています。しかし、バブル崩壊後の90年代にも採られたこの手法は、まったく効果がなく巨額の借金だけを積み残しました。今回も、主たる財源を7.8兆円の国債発行に求めており、そのため本年度の国債発行額は52兆円にまで増え、すでに1000兆円に達している政府債務はますます膨らみます。それによって長期金利が上昇し、国債の利払い額が雪だるま式に増える危険があります。

安倍政権は、財政出動と同時に無制限の金融緩和を進めるために、日銀と政策協定を結び、日銀に2%の物価上昇率目標（インフレ・ターゲット）を定めて無制限の資金供給を行なうように強要しました。しかし、すでに日銀による金融緩和は十分すぎるほど行なわれていますが、企業や個人による資金需要が低調なため、金融機関の手元

に大量の資金が滞留しています。安倍政権の狙いは、政府が増発する国債を金融機関がいったん購入し、それを日銀に全額買い取らせることによって財政赤字を穴埋めさせるということにあります。これは、日銀が戦時中に国債を直接引き受けたのと同様で、財政赤字の膨張に対する歯止めは失われます。

安倍政権のブレンたちは、日銀の無制限の資金供給や大胆な金融緩和によるインフレの進行が予想されると、企業は投資のための借入を増やし、個人はモノを早めにおおうとするから経済が活性化し景気が回復すると説いています。しかし、この20年間で日本の物価上昇率が2%を越えたのは、消費税を5%に引き上げた97年と食料品やガソリンの値段が急騰した08年だけです。金融緩和に伴う円安の進行は、自動車や電機部門の企業の輸出を伸ばしその株価を上昇させますが、やがて燃料など輸入価格の上昇を引き起こします。インフレが人びともたらすのは、食料品や燃料の値上がりや消費増税分の価格への転化だけであり、けっして給料が上がったり生活が楽になったりするわけではありません。それは、2000年代に入って、企業利益が好調な時期にあっても働く人々の所得はむしろ低下していた事実を見れば明らかです。

安倍政権は、アベノミクスが景気を回復させて実質GDPを2%押し上げ、60万人の雇用を創出すると豪語しています。しかし、すでに経済成長の条件の時代は終わり、仮に一時的に経済成長しても、増えるのは低賃金の非正規雇用と正社員の長時間労働だけなのです。また、「借金を増やさずに社会保障を拡充するために消費税率を引き上げる」と言いながら、国債増発で借金を増やし、社会保障は拡充どころか削減しようとしていることも批判されるべきです。

いま求められている経済政策は、従来型の公共事業の復活でも国債増発を支える金融緩和でもありません。私たちは、質の良い雇用と仕事を再生可能エネルギー、農業と食、医療・介護・子育ての分野で創り出し、地域のなかでモノと仕事と資金が回る循環型経済をめざします。

※金融緩和：①金利の引き下げや ②民間の金融機関から国債などを日銀が買い取ることによって、市場に回る通貨を増やすこと。現在、金利はゼロに近く、①は限界に達しており、②の施策が取られようとしている。

◆【声明】安倍政権の原発推進は危険な斜陽産業への無駄な投資
持続可能で安全なエネルギー政策への転換を！

（2013年2月5日 緑の党 運営委員会）

自民党が過去50年以上にわたって進めてきた原発推進政策は、東京電力福島第1原発事故を引き起こし、おびただしい数の人々の心身と財産に大きな被害を及ぼしました。事故からやがて2年が経とうとしている今なお、16万人以上の人びとが避難生活を余儀なくされています。

それにも関わらず、政権に返り咲いた安倍政権は、脱原発を求める圧倒的世論を受けて民主党政権が打ち出した「2030年までに原発ゼロ」を目標とする革新的エネルギー・環境戦略を放棄する方向を打ち出しました。そして、安全対策を骨抜きにしつつ原発を推進し続けた責任を恥じることなく、福島原発事故を反省しないまま、核燃料サイクルの維持を明言し、原発の海外輸出や国内での新規増設にすら意欲を示しています。

自民党の個人献金額の72.5%（2009年）は、東京電力など電力9社の当時の役員・OBらによる会社ぐるみの事実上の「組織献金」であり、自民党のエネルギー政策は今も電力業界の利益によって動かされています。今年7月の参議院選挙でも自民党が勝利すれば、安全性を軽視した原発の再稼働

や新規設に向けた圧力は確実に高まります。すでに破綻した核燃料サイクルを維持し、世界では斜陽産業となっている原発の新規建設・海外輸出にさらに税金や人材を投入することは、再生可能エネルギーや「節電所」などの新しい発展産業の芽を摘むことを意味します。エネルギーの海外依存が安全保障上望ましくないと言うならば、すべてを輸入に頼っているウラン燃料を用いる原発ではなく、純国産である再生可能エネルギーにこそ力を入れるべきです。

今、日本政府が進めるべきなのは、危険かつ不経済な原発の延命政策ではなく、即時の廃炉と核廃棄物の最終処分問題への対応であり、未来を見据えた安全で持続可能なエネルギー政策です。再生可能エネルギーの拡大に向けた政策的な支援や効率的なエネルギー利用のための制度設計こそが必要なのです。

緑の党は、福島原発事故に対する自民党の責任を追及するとともに、脱原発と持続可能で安全なエネルギー政策を掲げて、今年の参議院選挙に挑戦します。

◆【談話】北朝鮮による核実験に強く抗議します

—北東アジア地域の真に実効的な平和構築の枠組みの実現を

（2013年2月13日 緑の党 共同代表 中山均）

2月12日、北朝鮮は国際社会や「事実上の後ろ盾」とされる中国の意向にも反して、3度目となる核爆発実験を行ないました。この核実験は、世界とこの北東アジア地域に大きな脅威をもたらすものであり、広島・長崎、そして朝鮮半島にも広がる多数の被爆者をはじめ、この地域に暮らす全ての市民の平和への願いを踏みにじるものです。私たちは北朝鮮に強く抗議するとともに、まず核開

発の即時放棄を求めます。

私たちは、今回の事態に際して、北朝鮮も含む全ての関係各国に対し、軍事的緊張と非難の応酬やそのエスカレートではなく、六ヶ国協議などを通じた実効的な平和構築の枠組みの実現と、その前提となる信頼の醸成に向け、それぞれがあらためて確実に踏み出すことを強く求めます。その枠組みの中で日本政府は、被爆国としての経験と平

和憲法の立場から、積極的にイニシアチブを取っていくべきです。

私たちも、平和を求める世界の市民やNGO、そして各国の緑の党とも連携し、この地域の平和実現のためのアクションを強化していきます。

<参考> 2009年6月17日 みどりの未来（緑の党の前身団体）「朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）による核実験に関する声明」

<http://site.greens.gr.jp/article/38256898.html>

◆【談話】2012年度補正予算成立を受けて — 熟議なき「人よりコンクリート」
(2013年3月1日 緑の党 共同代表 中山均)

去る2月27日、国と地方をあわせて20兆円規模となる2012年度補正予算が参議院での1票差の可決により成立しました。

その内容は、将来世代へのツケに依存する公共事業優先の古い手法です。その一方で、例えば具体計画の策定が焦眉の課題となっている「原発事故子ども・被災者支援法」の予算は盛り込まれていません。「人よりコンクリート」を優先する安倍政権の姿を象徴しています。

巨額の公共土木事業の緊急性や必要性について、短期間で十分に審議できたのか、疑問です。

「ねじれ国会」の中で参議院は、本来、これを徹底精査し、生活や雇用に密着した、本当に緊急性のある事業に限って修正可決するなどの対処を取るべきでした。地方議会でも、国会の採決の前にわずか1日のみの審議だったところも少なくありません。「熟議」とは程遠い議会政治の現状です。

緑の党は、参議院で議席を実現し、国会と地方議会において、市民の視点から徹底した熟議をリードしていきます。

◆【声明】原発震災から2年—福島を忘れず、一日も早い全原発の閉鎖を
(2013年3月8日 緑の党 運営委員会)

東京電力福島原発事故から2年。事故は収束からほど遠く、現在でも16万人以上の人びとが避難を余儀なくされています。避難した人びとも、留まった人びとも、放射能の影響や将来の生活に大きな不安を抱きながら、見通しの立たない日々を送っています。

安全性が十分確保されないまま原発の運転を強

行し、多くの人びとの健康と財産に被害を及ぼし、多大な精神的苦痛を与えた国と電力会社・原発メーカーは、事故の責任を問われなければならないはず。ところが、自民党安倍政権は、原発再稼働は言うに及ばず新規建設と輸出すら進めようとしています。これは今も放射能の影響に苦しむ人びとに、二重の苦しみを与えるような仕打



※画像は (C)

車・宣伝用マグネットシートの活用を！

緑の党の宣伝用グッズとして、車用のマグネットシートを作りました。自家用車などに貼って、普段乗りに、また宣伝活動用として、街中でどんどん宣伝して回ってください！

- A. 正方形（大）：サイズ 縦364mm×横364mm 1枚2000円
- B. 長方形（大）：サイズ 縦300mm×横700mm 1枚3000円
- C. 正方形（小）：サイズ 縦150mm×横150mm 1枚500円
- D. 長方形（小）：サイズ 縦198mm×横298mm 1枚500円

*購入を希望される方は、緑の党事務局まで。

お支払いは商品到着後の後払いとなります（送料実費）。